

第3回 定例会

決算審査特別委員会審査報告

一般会計など全決算を“認定”

本定例会では、第1および第2決算審査特別委員会を設置し、9月10日から11日まで各委員会を開催し、令和6年度一般会計1件ならびに特別会計4件、企業会計2件について審査を行いました。

クレジットカード納付

問 市では、クレジットカードでの納付を行っていないのかを伺う。

答 市独自のクレジットカード納付は行っていないませんが、固定資産税と軽自動車税については、令和5年度から全国一律で納付書に地方税統一QRコードを印字しており、パソコンやスマートフォンなどから読み取ることで、クレジットカードなどによる納付ができます。

問 固定資産税と軽自動車税以外の税金については、クレジットカードで納付できないのかを伺う。

答 市民税と国民健康保険税について、市のシステム体制が整い次第、納付書にQRコードをつけて、クレジットカードによる納付ができるよう取り組んでいきます。

ヒグマ対策

問 鳥獣被害対策実施隊の出動回数及び隊員の活動状況や課題について伺う。

答 令和6年度は民間からの鳥獣被害対策実施隊を1名任命し、計8回出動しました。また、北海道猟友会の滝川ハンタークラブさんに依頼をし、パトロールや現地確認等、計51回対応していただきました。令和7年度については、隊員の増員と体制の強化にも取り組み、着実に対応を継続していきたいと考えています。

文化施設の運営管理

問 音楽公民館や市民交流プラザについて、利用する市民からの要望と、要望への対応について伺う。

答 音楽公民館については、主にエアコンの整備について要望があり、予算の関係上、大型扇風機とスポットクーラーを導入しています。市民交流プラザについては、座席数や座席の高さ、会場の使い方について要望があり、今後、各関係団体や施設側と協議等を行って検討していきたいと考えています。

特定空き家

問 特定空き家について、予定どおり除却を行ったのかを伺う。

答 行政代執行による除却1件、略式代執行による除却1件の、計2件の除却工事を令和6年度計画し、計画通り施行が完了しました。



※「行政代執行」「略式代執行」は10ページの「用語を理解して議会をもっと身近に！」を参照

学童の利用状況

問 学童の施設運営や職員の人材確保について、課題があったのかを伺う。また、それぞれの学童で待機児童が生じていたのかを伺う。

答 職員については、常勤職員の欠員により、臨時職員で対応しています。人材確保のため、ハローワークでの求人や広告掲載などにより職員の募集を行っています。また、年度当初に数名いた待機児童については、既存利用者の利用中止に伴い、年度末に解消しました。



後期高齢者医療制度

問 75歳になると後期高齢者医療制度に加入することになるが、制度の説明はどのように行っているのかを伺う。

答 75歳の誕生日を迎えられる方へ、制度を案内するパンフレットや、マイナ保険証についての説明文書などを郵送しています。

国民健康保険税

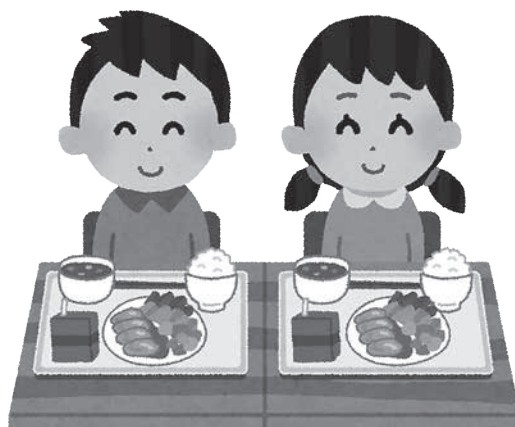
問 収納率向上のための具体的対策について伺う。

答 収納率向上特別対策事業として、督促状の発送後に電話での催告による周知啓発や、納め忘れを防ぐための口座振替の推進、未納者へ4月、7月、11月、2月に催告書等の一斉送付などを行っています。それでも未納の方には、早い段階から財産調査を行い、納付誓約を守らない場合は差し押さえを行っています。これらの取り組みの結果、令和6年度現年課税分の国民健康保険税の収納率は過去最高の97.58%となりました。

給食費

問 物価高騰の影響で、給食の量や献立に影響はないのか、また、工夫等について伺う。

答 令和5年度から給食費の単価を値上げさせていただいていますが、栄養教諭たちが、栄養価を満たした上でより安価な食材を求めながら、彩りなども考慮して献立を作成しており、安全安心で美味しい給食を提供することができたと考えています。



市立病院の経営状況

問 数年にわたりコロナの交付金収入があったことで、病床数削減や人員整備などの判断が遅れたのではないかとと思うが、考えを伺う。

答 病院としては、判断が遅れたとは考えていません。コロナ禍を経て通常の診療体制に戻れば、入院では200床程度、外来では750人程度の患者数に戻っていくと推測をしていましたが、想定とは異なる結果になったところです。

問 前年と比べ、入院患者が3.2%減、外来患者が6%減であるが、医業収益が約6.5%減と収益の減少幅が大きいことについて、どのように分析しているのかを伺う。

答 医師の減少により、収益性の高い手術等の件数が減少したことが大きな要因であると考えています。

決算審査特別委員会 における各会派討論



◎新政会

民生費について、民生委員は定数117名に対し、現員は89名と、担い手不足が深刻化している。募集要項の工夫や年間活動費の増額を国に求めるなどの対応が必要であると考えている。土木費では、緊急浚渫推進事業の1巡目が終了したが、近年の日本各地で発生する記録的な豪雨を鑑み、事業の継続を要望する。

公営住宅事業特別会計では、人口減少に見合う戸数管理を徹底し、居住者が安心して暮らせるよう施設管理者との情報共有と点検を行っていただきたい。病院事業会計では、恒常化している患者数の減少や、医師不足に伴う手術数の減少による厳しい財政運営を乗り越えるために、病床数減少など様々な政策を検討・実施していただきたい。また新規患者を獲得する方法・施策も考えるべきと思う。

◎市民ネットワーク

経費節減や財源確保の工夫により約9億円の黒字を確保できたことを高く評価する。厳しい財政環境下にあっても、健全な財政運営を意識した成果であると考えている。今後はEBPMの考え方を取り入れ、限られた財源を効果的に市民サービスへとつなげていただきたい。また、ふるさと納税の安定的な寄付確保のため、本市の魅力をさらに発信することを期待する。

病院事業会計について、滝川市立病院が抱える諸課題は特筆される事象ではないと考える。

これから様々な難しい判断を迫られると思われるが、市民利用者に対する適切な情報提供と、医療職の大量退職の事態を招かぬよう徹底した説明責任を強く求める。

◎会派清新

厳しい物価高騰の中、市税の収納率が大幅に増加したことは評価に値する。今後も職員が知恵を出し合い、市民の意見に耳を傾けながら、持続可能なまちづくりを進めることを期待する。また、次世代を担う子どもたちの成長環境づくりや地域の活性化、市民の健康・安心・安全につながる投資について、積極的な財政運営を求める。

空知管内では、事業実施に当たり業者との金銭的な癒着問題や工事費の水増しなど、あってはならない事象が起きている。全国的にも税の賦課漏れや徴収漏れなど、これまで予想できなかった事象が起きている。市立病院の経営問題も全国的な問題であり、今後も市立病院に限らず、全ての会計に携わる職員に適切かつ十分な対応を図るよう努められたい。

◎公明党

令和6年度は、長期化したエネルギー高騰や物価高騰により、まだまだ市民生活が苦しい状況にある。また、駅周辺地区の再整備は、将来的な財政見通しが立たないことから一旦停止しており、再始動することを望む市民がいる一方で、将来の財政負

担が重くのしかかり、これまで受けていた市民サービスが抑制されるのではないかと心配する市民もいる。一旦立ち止まったことは、全ての事務作業を総点検する良い機会であると考えている。

今後人口減少が予想される中、税収も減少することが予想される。各会計において、市民サービスの低下を招かないよう業務改革をさらに進めることを期待する。

◎日本共産党

病院事業会計は大きな赤字を出したが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった時期に献身的に診療にあたり、市民から厚い信頼を得てきたことは、コロナ後も変わるものではない。現在の患者数に見合った診療規模への転換を図らざるを得ないが、公的病院としての役割を果たし、市民から選ばれる病院として経営改善に取り組んでいただきたい。

介護保険特別会計について、高齢化が進み介護保険サービスの需要はさらに高まると予想されるが、人材の確保はますます困難になる。サービス提供に影響が出ないよう取り組んでいただきたい。下水道事業会計については、埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、持続可能な下水道事業を維持していくため、本市においても技術職員の確保に努め、インフラの維持管理を図っていただきたい。